

稲葉健二のコラム

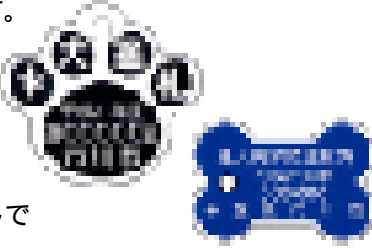
今回の一般質問で産業振興条例を取り上げました。現実の商店や商店会は苦しんでいます。廃業などでシャッター商店街も多く、加えて商店会の加入を断られ会員の数が少なくなり街路灯の電気料も困っているところもあります。自治会の支援を受けて継続している商店会の話もあります。また、イベントやお祭りの寄付も駅前などはチェーン店やフランチャイズも多く、協力を断られることも多くあります。一般の方にはわかりづらいですが、道についている灯りは、自治会などで設置管理している防犯灯（これは設置に市が9割、電気料は市が全額負担）大きい道路などは市や県や国が管理している道路照明灯（全て行政の管理）それと今回のテーマ街路灯があります。これは設置に市が補助金などを一部出しています。電気料は一定の金額までの補助であるので、会員の人数が減ったり、昨年のように電気料金が上がると応分の負担が増えてしまいます。また、やめるのにも費用がかかり、廃止もできずに困っている商店会もあります。市民の方から見るとどれも同じ灯りなので、なくなると困ってしまいます。条例で商店会の加入の促進や、イベントや街路灯に対して応分の負担に協力することを義務づけ（もちろん罰則はありませんが）ることが生き残りへの一歩につながり、大事なことだと思っています。



市川市の情報コーナー

犬の鑑札と狂犬病予防注射済票が変わりました。

議会で何回も質問し変更をお願いしていた、市川市独自の犬の鑑札と狂犬病予防接種済票が新しいデザインになりました。かわいくて付けたくくなるようなデザインを獣医師会の方や市民の方を中心に検討してきました。自治会の掲示板などに案内が貼ってあるかもしれませんが見ていただければと思います。犬は法律で登録と狂犬病の予防接種が義務付けられています。もちろん罰則もあります。当たり前なのが守られていない現実に少しでも前向きに進められるように考えていただきました。皆さんの友人や知人でそのような方がいらっしゃいましたら、ぜひ、登録と予防接種をしてくのかわいいデザインの仲間に入るようにお勧めして下さい。犬の登録は50%、予防接種も少ない現状を少しでも伸ばせるように応援して下さい。



市川市市民の方の定額給付金と子育て応援特別手当について。

市川市の対象者や支給の金額などをお知らせします。支給方法は市から郵送での申し込み用紙 提出 口座に振り込み、という形です。電話やATMなどの方法はありません。定額給付金対象者は47万2200人（この内割増の方は15万2300人）総支給額68億9600万円、かかる経費は2億2243.3万円。子育て応援特別手当は、対象者は5700人、支給額は2億520万円、経費は848万円です。経費もずいぶんかかることがわかりでしょうか。なるべく消費にまわしていただくことでの経済効果を期待しています。

ちょっとコーナー

先日、空き缶リサイクル機械でリサイクル中のこと、次にこられた女性の方に「稲葉さんですか？」と声をかけられました。「いつも、このひと言メッセージを読んでいます。何をしているかよくわかり楽しみにしています。」とのことでした。すごく嬉しかったとともにこれからも頑張ろうと決意を新たにしました。続けていてよかった、ありがとうございました。

「意見・要望等お気軽にご相談！」



市川市議会議員
稲葉健二の
ひと言メッセージ

27
平成21年4月10日発行
稲葉健二事務所
272-0021
市川市八幡 2-2-10
TEL 047-333-1783
FAX 047-334-1990
URL www.inaba-kenji.jp
MAIL kenjiinaba@aol.com

急病医療の特集です。

ここ数年議会で提案させていただいた急病医療の対策に、今年度から電話での市川市急病医療情報案内が決定しました。現在も前26号で報告いたしましたが、24時間病院案内サービスが稼働しています。今まではいつでも病院を紹介することができるサービスです。このサービスに加えて、病院の紹介はもとより、健康や医療の相談、メンタルヘルスの相談まで拡大したものです。急病に対する当番病院の紹介と相談は医師・保健婦・看護師・臨床心理士等が行うものです。初年度の前予算は3000万円です5月頃から稼働を予定しています。

それではなぜこのような施策が必要なのかを書きたいと思います。1. 24時間365日市民の方が当番病院などを、人がでる電話で知ることができる。留守電サービスなどでは状況による応用がきかない。2. 当番病院などを知り自ら病院に行ける方は救急車の利用を控えるなどの効果が期待できる。救急車出動の内、軽症であった方が5割以上でした。（平成19年度）また、1件の出動に対しての費用は約49000円かかります。（タクシーがわりに利用している人もいます）3. 消防局に入る病院案内や夜間の相談などが減ることが予想できて、本来の緊急時対応になる。（兵庫県の伊丹市ではこのような施策効果で37%の減）4. 市川市だけの施策となる、メンタルヘルスで悩んでいる人に対して24時間相談の場を確保できる。（現在メンタルヘルスで悩んでいる方に対応するこのような施策はない）5. 廃止となった市のあんしん共済事業で担っていた、24時間対応の健康・医療相談を行うことができる。など主に5つの効果が期待できそうです。近隣市ではもちろんありませんし、全国でも伊丹市が昨年からはじめたところですが、メンタルヘルスにまで対応しているものはありませんので、日本初ということになります。

ただ、ここで改めてお話ししたいのは、最終的には、このサービスも含めて救急医療に対する人の考え方と、マナー、ルールだと思います。簡単な気持ちで救急車を呼べば、本当に必要な人がつかいたいときにないということになります。かといって我慢すればよいわけではありません。テレビで報道されていましたが、明日から旅行に行くからといって夜間の救急病院に風邪の薬をもらいにいくような人がいては、救急医療を支えている方たちはどのように思うのでしょうか。この電話サービスを使って本当に必要かどうかの判断の一助になればありがたいと思います。

